



京丹後に棲む
絶滅危惧種のハヤブサ

ハヤブサ

ニュース No.77

2022. 10. 14

発行 米軍Xバンド レーダー基地反対・京都連絡会

連絡先 〒602-8347 京都市上京区四番町121-5 大湾 宗則

電話&FAX 075-467-4437

郵便振込座 00950-9-303127 名義 京都連絡会

反戦・反基地・反安保闘争 の前進を共に！

11・12京都集会の成功を！

池田高巖



米軍基地は撤去せよ！

**岸田政権の軍拡・改憲に反対し
いまこそ東アジアの平和を！
米軍Xバンドレーダー基地撤去！
11・12京都集会**

**11月12日（土）13:30 集会後、デモ
ひとまち交流館・京都 第4・5会議室**

米軍 X バンドレーダー基地反対・京都連絡会はきたる11月12日、ひとまち交流館・京都を会場に集会を行います。この集会を成功させ、反戦・反基地・反安保闘争の前進を共に切り拓いていくことを訴えます。

差別と闘い、排外主義を許さずたたかおう！

岸田政権はさる10月4日、朝鮮民主主義人民共和国のミサイル発射実験を理由にして、北海道や青森県などを対象地域に「Jアラート」を発令、早朝からマスコミを動員して「北の脅威」を煽り立てた。しかし、青森県に発令された時点ではミサイルがすでに日

本の上空を通過していたことが端的に示すように、その目的は支持率の急落にあえぐ岸田政権が「危機」を意図的に演出することで自らへの批判をそらし、大軍拡に向かって排外主義的に「国民統合」を図ろうとするものだ。

他方、日米韓の側の動きを見てみれば、8月下旬の大規模な米韓合同軍事演習に続いて、9月23日からは米原子力空母ロナルド・レーガンが韓国・釜山に入港して29日まで米韓合同軍事演習を実施、9月30日には日米韓合同の対潜水艦作戦の共同訓練が行われた。その後も10月6日の日米韓のイージス艦が参加した三軍合同演習などが行われている。

このような日米韓の三軍による軍事的圧迫、エスカレートする戦争挑発という情勢の中で、あるいは朝鮮半島分断以降の対朝鮮敵視政策と制裁の継続という歴史的な文脈の上で、共和国のミサイル発射実験が行われており、共和国の側の動向だけを単独で取り出して「危機」を煽り立てるのは間違っている。朝鮮半島・東アジアの軍事緊張が不断に拡大する主要な原因は、日米あるいは日米韓の政府の側の歴史的・現代的な動きにこそある。その点をはっきりさせて、排外主義と対決していかなくてはならない。

岸田政権の戦争政策との対決を！

東アジアの平和の実現に向けて反戦平和のたたかいを前進させていくためには、他でもなく自国政府の戦争政策に反対し、それを止めていくことが必要だ。

岸田政権は、日本の「防衛力の抜本的強化」として自衛隊による敵基地攻撃能力の保有と憲法9条改悪策動、「台湾海峡有事」を煽りながらの日米共同作戦計画の策定などの動きを強め、それを財政的に裏付けるものとして

「防衛費倍増」に向かおうとしている。それら日本の戦争体制の飛躍的な強化は、年末予定の国家安全保障戦略、防衛大綱、中期防衛力整備計画の改定としてまとめ上げられようとしている。岸田政権はさらに、辺野古新基地建設をあきらめず、「南西諸島」においては自衛隊のミサイル／レーダー基地の建設・強化と自衛隊の駐屯部隊の増強をおし進めている。また、かつての日本帝国主義の植民地支配・侵略戦争への反省を欠落させたまま、日米韓三国の軍事的連携強化を推進している。

いま、日米欧などの諸政府がいくつもの軍事や安全保障の枠組みを重ね合わせて、中国を包囲し、朝鮮民主主義人民共和国を恫喝するアジアにおける集団的な安保体制をつくりだそうとするなかで、岸田政権は日本の防衛力の「抜本的強化」をもってその動きを積極的に進め、東アジアの軍事緊張を拡大している。沖縄の人々、韓国をはじめアジアの人々のたたかいと連帯し、岸田政権の戦争政策とたたかおう。

米軍 X バンドレーダー基地の

撤去をめざして！

同時に、このような岸田政権、あるいは日米政府の動きは、東アジアにおける日米の「ミサイル防衛」体制の一角を構成する京丹後・宇川の米軍 X バンドレーダー基地の強化をもたらすものである。

ロシアによるウクライナ侵攻の現実、レーダーが攻撃の対象になることを京丹後・宇川の住民に実感させることになった。しかし米軍・防衛省は、逆にだからこそ基地の「警護」が必要だと言わんばかりに、基地の強化、監視体制の強化に向かう動きを強めている。

戦争体制づくりの一環として強行制定された土地利用規制法の9月全面施行の中で、京丹後の米軍 X バンドレーダー基地周辺は、基地の「情報・通信施設」としての日米政府にとっての軍事的重要性ゆえに「特別注視区域」に指定されようとしている。それは、このかんの監視カメラの増設など基地の警戒・監視体制の強化とあわせて、人々の生活を圧迫していこうとしている。

岸田政権による戦争政策の推進と同時一体的に進む京丹後の米軍 X バンドレーダー基

地の強化は、基地の存在がもたらす被害と同時に、それが東アジアの軍事緊張を不断に高め人々を抑圧する存在であること、日本による集団的自衛権行使をめぐる最前線のひとつにあることなど、この基地の持つ加害性をあらためて浮き彫りにしている。

反戦・反基地・反安保闘争の前進を！

岸田政権の下で飛躍的・画段階的に進められようとしている日本の戦争体制づくり、その一部としている米軍 X バンドレーダー基地の強化を阻止していくためには、そのような動きの根幹にある日米安保体制そのものを問い、対決していくことが求められるだろう。それはまた、日米安保体制が規定してきた戦後の日本の政治や社会の在り方を問い直し、根底から変革していくことにもつながっていくだろう。

そのようなたたかいを通して私たちは、辺野古新基地建設阻止のたたかい、琉球弧の軍事化とのたたかい、韓国・ソソン里でのたたかいをはじめ、沖縄や韓国・アジアでの民衆のたたかいとつながり、地域の軍事緊張を不断にもたらす原因を除去し、真に平和と民衆の連帯を実現する道へと大きく踏み出していくことができるだろう。

11・12 京都集会の成功に向けて共に力をあわせてたたかっていくことを呼びかけます。



基地前抗議のアピール

京丹後・現地訪問活動への呼びかけ

10月21日（金）午前8時30分、
鴨川五条大橋西詰 GS 前集合

*参加者は事前連絡をお願いします。

（池田：090-7108-5508）

国葬・旧統一教会との闘いは反安保・改憲阻止の戦いである

ハヤブサNo.74、75につづく論稿です。 大湾宗則
国葬は破綻させたが法制化を許してはならない!

16億6千万円をつぎ込んだ安倍の国葬は、大日本帝国時代を再現するかのよう^{すあらし}に黙禱の際、靖国賛歌の「国の鎮め」、天皇の勅使拝礼の際は「悠遠なる皇御国」が演奏された。

東京を中心に全国いたるところで「安倍政治の美化は許さない」の声は天を突き、これに対して2万人の警察官と近衛兵に当たる儀仗兵1390人が護衛し、まさに東京は「戒厳令」。

前後して統一教会と安倍、自民党との癒着が次々暴かれ内閣支持率35%へ続落。追撃あるのみ。国葬反対の声は過半を超え、安倍の死を利用した岸田内閣の目論見は破綻させたが「転んでもタダでは起きない」政府と支配者たちは、国葬の法制化を狙っている。許してはならない。**国葬は憲法違反の下で強行された。**

①国葬は、内閣の閣議決定だけでなされた。これはナチスの授權法(国会を停止して政府が法律を乱発する)と同質であり、憲法改悪の目的である緊急事態条項の先取りで憲法違反である。

1999年公布の内閣府設置法の中に第四条3項三十三に儀式の項「国の儀式並びに儀式及び行事に関する事務に関すること」、これを用いて国葬を強行したとのこと。しかし1926年の天皇の勅令で法制化した国葬令は大日本帝国敗戦後の憲法「改正」で現憲法体系にそぐわないとして廃棄されている。1967年の吉田茂の国葬も又、大日本帝国憲法の「大喪儀」を援用して「国葬」を閣議決定したがこれも違憲である。

現代の天皇の「大喪の礼」も憲法に基づくものではなく、皇室典範であり、天皇家の私事であり、それゆえ国葬として行われるべきでない。(ハヤブサNo.75に「皇室典範にある大喪の礼だけが国葬である」と記しましたがお詫びして訂正します。)

②天皇の違憲行為…安倍家の私的な葬儀や国葬に天皇の花輪・供物を提供し、天皇の代理を国葬参加させたことは安倍自民党が統一教会の後ろ楯になり、擁護してきた過ちと同罪である。

国民の過半を超える多数が反対し、国論が二分する安倍の国葬に天皇代理が参加したことは、憲法第一条の「天皇は日本国民統合の象徴」の役割を自ら破り、政治的に国葬を強行した岸田内閣に与し、憲法第一条に違反した。また、天皇は第四条で第七条の国事行為のみ行うとあり、国葬への参加は憲法第七条にある10項目の儀礼的な国事行為以外であり憲法違反である(又、天皇が震災見舞い等を「公務」も違憲である)。

この憲法違反の責任は岸田首相が負うべきで

ある。何故なら憲法第三条に「天皇の国事に關するすべての行為には、内閣の助言と承認を必要とし、内閣がその責任を負う」とある。

この条文は政府による天皇の政治利用を前提としている。断じて見過ごしてはならない。

統一教会の経済活動は組織的で違法な詐欺行為

統一教会の活動は大きく四つに分けられる。

①勧誘…(中間層の不安に付込み、街頭でのアンケート、悩み相談、手相見、系図づくり、各種サークルやセミナー活動などで教化して信者を作り、統一教会の戦士に仕立て上げる)。

②経済活動…^{うらぼん}靈感商法と高^{きまう}額献金…孟蘭盆教(地獄などに落ちた霊界の先祖供養)の教義を詐取し、「現在の家族の不幸は先祖の祟り」「靈感商品の購入の多さや高^{きまう}額献金の多さほど供養が報われる」などと勧誘していることが違法なのだ。特に「集金」は、日本に集中している。

日本ではキリスト教のアダムとイブの原罪を韓国・朝鮮と日本に当てはめ、朝鮮半島を侵略し植民地化した日本をイブ、その被害を受けた韓国・朝鮮をアダムとし、韓国に供物(献金)を貢ぐことが日本人家庭の先祖供養になると説いて金集めしてきた。

③事業活動…収益と献金は韓国本部へ、資金は米国、韓国その他での会社経営で膨らませる。

④こうした勧誘、経済活動、事業活動の資金は国際勝共連合活動資金として集中させている。

統一教会の何が違法なのか

宗教法人の統一教会が自民党議員と親しくなったり、自民党の選挙を手伝ったり、秘書を送り込んだりしたことが違法ではない。統一教会が宗教法人格を利用して布教活動で詐欺行為を行い、金品を搾取収奪したことが違法なのである。統一教会の被害が信者の破産や二世に精神的経済的苦痛を与えていることを知りながら選挙などに利用しつつ、「詐欺と反共」の統一教会に信用と権威を与えた各種議員の利己的で公職に相応しくない政治活動が非難されている。

2009年、統一教会は印鑑などの靈感商法が摘発され実刑されている。この事件を契機に統一教会は自己保身のため、自前の「法令順守」で世間を欺き、政治家・政権を後ろ盾に生き残り、「違法な布教」で金を集め続けてきた。

世情、統一教会の解散請求が出されている。解散請求は、ブーメランとして私たちに帰ってくる。社会権の否定に繋がる団体解散権を政府に与えてはならない。「公共の福祉」を守るのは社会権に基礎を置く共助という大衆的な社会的規制(compliance)で解決すべきである。

岸田首相の国葬の意図…中露朝の世界的包囲網
世界は、覇権をめぐる米中対決が激化し、新たに NATO の東方拡大にウクライナが呼応し、それに対抗したロシアのウクライナ侵略と一部併合がある。世界は米国陣営と中国陣営に分断された現象を呈している。

岸田首相は、安倍の死を国葬という形で弔問外交に利用し、①国内的には安倍外交の「遺産」を継承して安倍派の支持を取り込み、②対外的には安倍が築いた西側諸国との「同盟関係」を引継ぎ、NATO(EU)、QWAD、AUKAS、日米(韓)安保勢力など国際勝共連合(国際安全保障同盟)の総結集を実現し、国民的支持を目論んだ。人々は声を上げ岸田内閣に一矢報いた。国葬・統一教会批判は、差別を許さず日米安保廃棄・憲法改悪反対の戦いとして進めよう!

統一教会の活動目的は「共産主義を撲滅する」という国際勝共連合である。国際勝共連合とは今風に言えば国際安全保障同盟と同義である。

「反共」を目的に 1951 年に締結されたサ条約や日米安保条約は、再軍備を強制して憲法改悪の口火を切った。岸も安倍もこの一点で統一教会と結託した。いま政府によって進められている沖縄辺野古新基地建設、南西諸島へのミサイル自衛隊部隊配備、政府の軍拡と防衛予算、敵基地攻撃…このように「全ての道は安保と改憲に通じている」。差別を許さず「反戦・反基地・反安保と改憲阻止!」、共に闘いましょう。

京都連絡会 10 月例会

テーマ「再論 重用土地利用規制法と宇川」

提起者 池田たかねさん

10月27日(木) 午後6時30分

ひとまち交流館・京都 第2会議室

「街なかビラ」の報告と 今後のお知らせ (文責 白井)

9 月の報告

第 140 回 9 月 16 日(金) JR「二条駅」周辺 6 人
15 ヶ月ぶりにこの場所を設定しましたが、メインの「生協の店」が建て替え中で残念でした。
〈街の声〉●「基地の事を聞いてはいたが、こんな事になっているとは…、でもロシアの問題もあるし…。」(宮津出身の人) ●「え〜ッ、びっくりした。こんな動きは心配やな」(女・中年) ●「中国や北が攻めて来たらどうするんや、原発に反対なら電気使うな」(男・中年) “原発が安全なら御所に造ればいい”と言ったら、「それはそうや」とチラシを受け取られた。●「最近、様子を見に経ヶ岬に行って来た」(女・70代) この人は小学校の後輩と分かった。「久美浜に原発を造らさんで良かったね〜」とも。●「ご苦労さん」とビラを受け取った人(男・高齢)など、人通りは多くないが、そこそこビラは受け取って貰えました。



J R 二条駅前

※第 141 回 9 月 22 日(木) JR「円町駅」は雨で中止。

10 月の予定

第 141 回 10 月 14 日(金) J R「円町駅」周辺は終了しました。次回の「ハヤブサ」で報告します。

第 142 回 10 月 28 日(金) 京阪「藤ノ森」駅 周辺
集合場所：京阪電車「藤ノ森」駅 北出口
時間は 11:00 ~ 12:00 です

みなさんの無理のない参加をお待ちしています。

連絡先：090 - 5672 - 1597 (白井)

労働組合つぶしの大弾圧を許さない!

京滋実行委員会 ドキュメンタリー映画
「ここから『関西生コン事件』と私たち」
上映会

藤原

日時 11月6日(日) 13:30分~4時30分頃

場所/京都府部落解放センター(烏丸紫明交差点東南角)

参加費/ 1200円(予定)

襲いかかる警察。つぎつぎに逮捕される組合員。

ストライキやビラまきなど当たり前の労働組合活動が、日本ではいつから組織犯罪とされるようになったのか。無法地帯と化した生コン業界で、組合員という理由だけで仕事も奪われていく――。

戦後最大規模の組合弾圧事件＝「関西生コン事件」は、仲間と家族を引き裂き、強さを誇った組合は壊滅的危機に陥った。だが、踏みとどまって、苦しみながら、もがきながら、ここから運動を立て直そうとする確かな胎動がある。

関生支部の真実と現在を、ひとりの女性ドライバーを中心に描き出したドキュメンタリー映画の上映を行います。是非ご参加を。 -- 以上